

北海道ラグビーの日2024報告書

(一財)北海道ラグビーフットボール協会/HRFU

リーグワン公式戦 クボタスピアーズ vs コベルコ神戸スティーラーズ **2024.04.21**@大和ハウス プレミストドーム (札幌ドーム)

リポビタンD チャレンジカップ 2023 日本代表 vs イタリア代表 **2024.07.21**@大和ハウス プレミストドーム (札幌ドーム)

関東大学対抗戦グループ公式戦 明治大学 vs 青山学院大学 **2024.09.08**@月寒ラグビー場

全国高校選手権大会北海道予選 南北北海道大会決勝戦 **2023.09.28**@月寒ラグビー場

総括

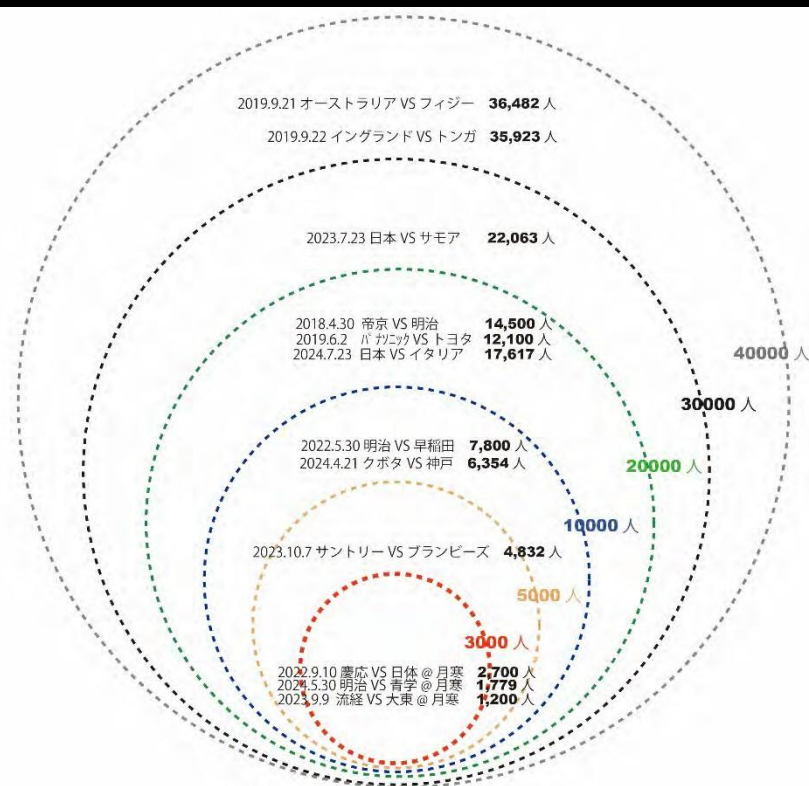
Concept & Mission

北海道におけるラグビーの普及の度合いは観客数に比例すると思われる。

競技としての魅力は何か？地域社会に貢献できることは何か？

それらを考えながら集客の最大化を図り、普及につなげる。

「北海道ラグビーの日」はその試金石である。



「北海道ラグビーの日」2022-2023 年度サポーター

計 67 社

「北海道ラグビーの日」2024 年度サポーター





「未来へのパスProject」応援グループ



- ・グルメガーデン：地産食材を活用した飲食と交流の場をつくる
- ・あんこプロジェクト：北海道小豆を美味しさとパワーをひろめる
- ・地産プロモート：道産の恵を育てる農家や企業を広め、つなげる
- ・リーチマイケルプロジェクト：感動の観戦体験を多くの子供たちに

「北海道ラグビーの日」が目指すものとその課題

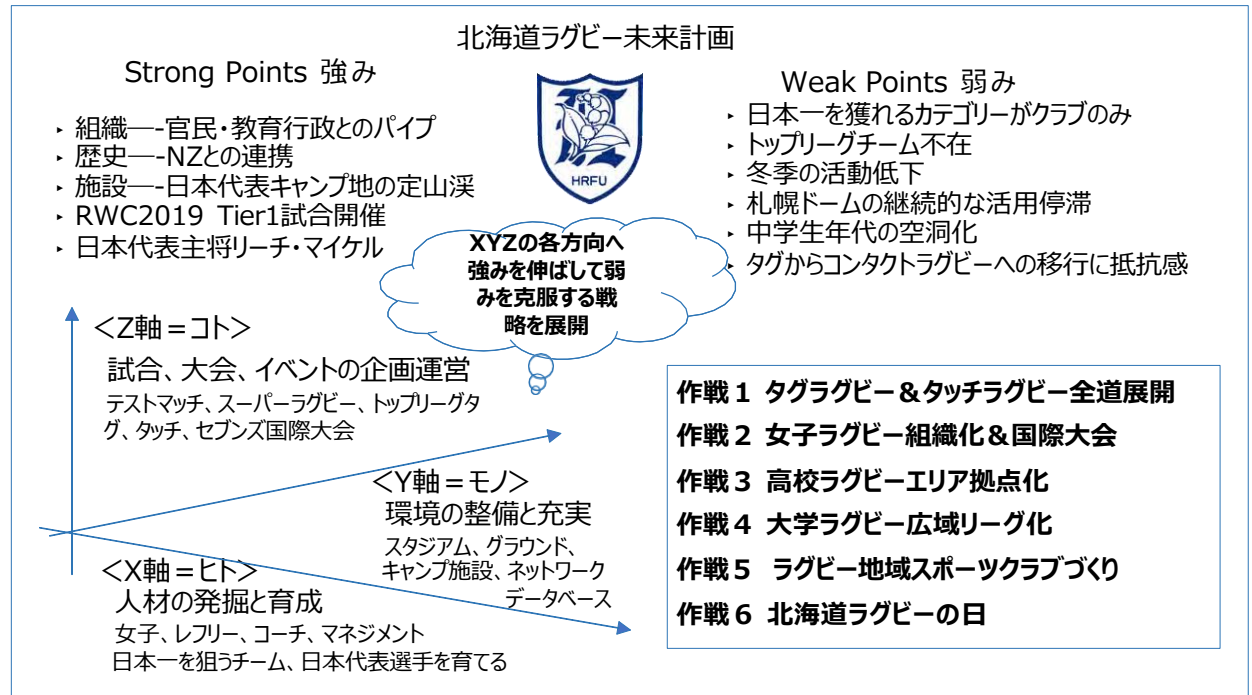
「北海道ラグビーの日」事業一覧	
観客数、収支差益(代表戦は HRFU 事業のみ)、利益率(収益/収入×100)	
早稲田大学 vs 明治大学 22/5/1 札幌ドーム	7,800 人、760 千円、3%
日本体育大学 vs 慶應義塾大学 22/9/10 月寒ラグビー場	2,700 人、920 千円、22%
日本代表 vs サモア代表 23/7/22 札幌ドーム	22,063 人、680 千円(HRFU 事業)、94%
大東文化大学 vs 流通経済大学 23/9/9 月寒ラグビー場	1,210 人、340 千円、17%
南北北海道大会決勝戦 23/10/1 札幌ドーム (無料試合)	4,000 人、—、—
東京サントリーサンゴリアス vs AC ブランビーズ フレンドシップマッチ 23/10/7 札幌ドーム	4,832 人、-17,000 千円(サントリー担)、-57%
クボタスピアーズ船橋・東京ベイ vs コベルコ神戸スティーラーズ リーグワン公式戦 24/4/21 札幌ドーム	6,354 人、-2,300 千円(HRFU 担)、-9%
日本代表 vs イタリア代表 24/7/21 札幌ドーム	17,411 人、2,000 千円(HRFU 事業)、17%
明治大学 vs 青山学院大学 23/9/8 月寒ラグビー場	1,779 人、1,200 千円、32%

『北海道ラグビーの日』宣言

- 一つ、ラグビーのもつ誇らしい価値とスポーツのもつ平和をめざす力を、一層、強いものにします。
- 一つ、ワールドカップの熱気を、もう一度、札幌ドームと札幌の街に取りもどします。
- 一つ、未来をになう北海道のラグビーボーイズ&ガールズに、生涯、忘れない思い出をつくります。

「北海道ラグビー未来計画」から「北海道ラグビーの日」の誕生

北海道には、自然と人の生活のバランスのとれた社会風土があり、それがラグビーの精神性に適している。幸運なことに北海道の大地にラグビーは根付きやすい。その一方で、過疎化と気候条件の厳しさの下、大会運営、普及活動、施設整備に精励してきた北海道ラグビー100年の苦難の歴史がある。そのかいあって、若年層のラグビー人口はRWC2019以降も年1.2%と微増している。北海道ラグビーの未来は、プレーヤーたちにラグビーを継続してもらい、なおかつ新たなファンを獲得していくことにかかっている。そこで北海道ラグビー協会(以下 HRFU)では、ヒト=人材発掘と育成、モノ=環境の整備と充実、コト=ビッグイベントの企画運営、の3軸に強みを伸ばして弱みを克服すべく「北海道ラグビー未来計画」に則した作戦に着手した。「北海道ラグビーの日」は、全道の総力を結集してビッグゲームを開催することで、若い選手たちに忘れられない思い出と夢を持ってもらい、新たなファンを獲得して、未来世代にインパクトを与えるチャンスをつくる作戦だ。試行錯誤の2年間の成果を見極め、必要とされる普及活動に資金を投入できる事業マネジメントと人材が求められる。



「北海道ラグビーの日・北海道ラグビー100周年」2024事業データ



北海道ラグビーの日 2024 のポスター・チラシ

	4/21 札幌ドーム ジャパンラグビーリーグワン2023-2024 クボタスピアーズ船橋・東京ベイ vs コベルコ神戸スティーラーズ	7/21 札幌ドーム リポビタンDチャレンジカップ2024 日本代表 vs イタリア代表	9/8 月寒ラグビー場 関東大学ラグビー対抗戦 明治大学 vs 青山学院大学
集客数	6,354	17,411	1,779
収入	¥25,864,500		¥3,731,400
支出	¥28,189,624		¥2,521,581
収支差益	-¥2,325,124		¥1,209,819
利益率	-9.0%		32.4%
チケット売上金額	¥22,114,500	-	¥3,391,400
チケット売上枚数	6,876	-	1,756
チケット単価	¥3,216	¥7,675	¥1,931
HRFU収入	¥4,850,000	¥12,061,241	¥1,209,819
HRFU支出	¥4,003,526	¥10,033,486	¥566,243
HRFU差益	¥846,474	¥2,027,755	¥643,576
主な収入内訳	<ul style="list-style-type: none"> 一般販売 10,170千円 HRFU販売 7,140千円 チーム販売 4,800千円 協賛金 3,750千円 	<ul style="list-style-type: none"> 2023実績の集客比率換算 コマーシャル収入除く (スポンサー協賛金、放映権料等) HRFUチケット直売り 18,465千円 HRFUチケットサイト売り 13,000千円 	<ul style="list-style-type: none"> 関東協会委託費 100千円 関東協会協賛金 240千円
主な支出内訳	<ul style="list-style-type: none"> 会場費 7,400千円 ホスピタリティ費 2,060千円 演出進行費 4,580千円 広告広報費 4,500千円 所管権利委譲料 7,150千円 販売手数料他 1,400千円 JRFU協力金 1,100千円 	<ul style="list-style-type: none"> 2023実績の集客比率換算 コマーシャル費用除く (広告掲出料、マスキング費用等) 【備考】 札幌市招待 2,330枚、8,155千円分購入 札幌市チカホ 35,000千円相当の柱巻広告 	<ul style="list-style-type: none"> 会場費 530千円 広告広報費 450千円 あんこプロジェクト費 420千円 優待企画費 580千円 謝礼交通費等 350千円
HRFU 主な収入内訳	<ul style="list-style-type: none"> 協賛企業49社 S 2,000千円 1社、A 1,000千円 2社、B 500千円 4社 C 300千円 3社、D 100千円 10社、E 30千円 17社 内高校1,500千円。未来へのパスProject 農産物提供 12社 	<ul style="list-style-type: none"> HRFU原資(協賛金、マイケルシャツ販売) 620千円 JRFU開催協力金 2,740千円(*予定) 札幌市負担金 2,970千円(小学生招待) グルメガーデン、プレミアムシート業務費 5,600千円 	有料試合開催収益
HRFU 主な支出内訳	<ul style="list-style-type: none"> リーグワン赤字補填 未収協賛金立替 2,000千円 	<ul style="list-style-type: none"> 広報費 3,380千円 企画費(スクラムエニゾン、チカホトークイベント等) 680千円 グルメガーデン、プレミアムシート運営費 6,000千円 	チーム交付金

【事業分析】 ジャパンラグビーリーグワンの道内認知度の低さを克服できず集客に難渋した。株クボタと農業のつながりから着想を得た生産農家とラグビーをつなぐ企画が「未来へのパスProject」の柱の一つになり、観客にラグビーを通じて地産の食でも楽しんでもらうことが定着した。試合終了後に選手と子どもたちがフィールドに集うノーサイドタイムも定着した。日本代表戦では昨年の反省を活かして席種席割の工夫でバックスタンドが埋まった。しかし、地元特性に合わない空回りの広報施策もあって入場者数の伸びがいま一步だった。スクラムユニゾンによる相手チーム国家斉唱イベントなど大好評で観客の多くが賑わい楽しんでもらった。対抗戦月寒開催では観客動員の初動の遅れを取り戻し、ほぼ満席のスタンドが熱戦に沸いた。

マッチレポート

Concept & Mission

ラグビーは試合結果だけではなく随所に見どころが詰まっている。
また試合の後はアフターマッチファンクションという文化がある。
勝負のポイントと観戦文化という視点から今年の試合を振り返る。



北海道コンサドーレ札幌コラボ企画「FOOTBALL WEEKEND」



スピアーズ VS スティーラーズ スコア



日本代表 VS イタリア代表 攻め立てるイタリア代表

クボタスピアーズ vs コベルコ神戸スティーラーズ

北海道でのリーグ ONE 公式戦初開催、昨年のリーグ ONE チャンピオン「クボタスピアーズ船橋・東京ベイ」を迎えてのホームゲームを実施。対戦相手は日本選手権7連覇、歴史と伝統のある人気チーム「コベルコ神戸スティーラーズ」との激突になった。この試合は、初めてマッチデースポンサーを採用して「株式会社インフォマート」様にこの試合を盛り上げて頂いた。ありがとうございました。

4月開催ということで、屋外でのイベントには制限があったが、ドーム内のスペースを利用したイベントを実施。新たな取り組みとして北海道コンサドーレ札幌と初めてコラボ企画「FOOTBALL WEEKEND」実施。前日のサッカーの試合観戦と今回の試合への観客誘導や体験会などを共同で行った。次年度以降もリーグ ONE 開催時にはコラボ企画を実施する予定である。より一層、「北海道スポーツの『輪』」を広げていければと考える。

試合は、今シーズン怪我人が多く、ベストメンバーが揃わないスピアーズがこの試合はベストゲームを展開。接点での攻防で勝ち、イーブンボールへの働きかけも早く、後半に突き放すことで勝利。この試合で負けると優勝戦線から一歩後退するスティーラーズはスピアーズの圧力に屈した内容であった。両チームのファンも道外より多く観戦を頂き非常に満足されて帰られた様子で「ぜひ来年も札幌で試合を見たい」という声が多く届いた。4月は北海道の観光シーズンとしては閑散期であることから観光振興にも貢献できたと考える。ゲームの演出内容や運営の中で常に「おもてなしの精神」を考え、両チームのファンに喜んで帰ってもらいたいと思う。

日本代表 vs イタリア代表

日本代表戦を2年連続開催することが出来た。これも HRFU の運営能力を高く評価頂いたことに加え、7月の国際試合が今後も行われる中で「暑さ」というのが問題となる中で「大和ハウス プレミストドーム」は常に20度前後の気温設定で出来るので、選手も観客にも「優しい」環境であることは間違いなく、次年度も開催をしてもらうべく推進して行く予定である。エディージャパンが掲げる「超速」ラグビーのお披露目とあって、17,000人を超えるファンに会場頂いた。JRFUとの広報戦略の波長がかみ合わず、前回の23,000人を超えることを目標としていたHRFUとしては「歯がゆい」運営だった。ファンの目線で実践出来ない部分が多々あり、これについては継続した「試合運営全体の充実」に向けた意見交換が必要であると考えます。

イベントとしての充実について、HRFU側は昨年の反省を踏まえて反映出来ており、グルメガーデンの飲食提供、プレミアムシートについては、道産食材の生産者様と



日本代表 VS イタリア代表 スコア

のコラボ企画「未来のパス project」を実施。約 600 人のプレミアムシートを購入の方は、「北海道の食」を堪能頂きシートとしての充実感はチケット購入者には感じてもらえたと思う。今後は、もう少し踏み込んだ企画を行い、同時に開催されている

「さっぽろビアガーデン」とのコラボなど、観客動員に向けてのイベントを更に拡大していきたい。また、日本代表OBなどの協力をもらい、会場内やプレミアムシートに更なるご協力を頂きファンとの距離を縮めるイベントを企画したいと考えている。試合は、今期好調のイタリアチームが見せた「超速」ラグビーが常にゲームの主導権を握りスピードあるアタックに会場は大きな歓声があがっていた。日本代表は、今は若手の育成期間でありながらも、随所に好プレーが出て、地元出身リーチ マイケル主将がボールを持つと大きな声で「リーチ」と叫ぶ声はドームに響いていた。昨年に続きプレミストドームでの試合は「連敗」となったが、エディージャパンをこれからも支え続けて、常に強化試合を「札幌で実施したい」となるように、JRFU(日本ラグビーフットボール協会)とも連携を図りながら 2025 年度シーズンもぜひ日本代表戦を開催してもらいたいと強く願っている。



プレミアムシートでのサービス



明治大学 VS 青山学院大学 スコア

明治大学 vs 青山学院大学

関東大学対抗戦の開幕ゲーム 前年度大学選手権 準優勝の明治大学と今年創部 100 年の青山学院大学を迎え開催した。双方ともに充実した夏合宿を実施した内容のゲームで、特に青山学院は 30 年ぶりの大学選手権出場を目指し、しっかりとしたチーム作りを感じた内容であった。前半は 2 個のトライで青山学院が善戦をして 26 対 10 で折り返したが、後半は地力で勝る明治大学が突き放し、73 対 17 で明治大学が勝利した。試合会場の月寒ラグビー場は 1,700 人を超えるファンで埋め尽くされ、根強い大学ラグビーファンや両大学の OB/OG の皆さんなど、たくさん方に応援に来て頂いた。開幕戦は 9 月第 1 週目が想定され、関東周辺では「夏」の気候であり、選手の負担を考えると涼しい北海道で試合することが良いかと考えており、毎年 9 月開幕戦については対抗戦かリーグ戦どちらかの試合を実施したいと思う。



函館ラ・サール高校 VS 札幌山の手高校

南北北海道大会決勝戦

昨年から、高校大会の決勝を「札幌ドームで開催」ということを提案して実施。今年は、ドームのスケジュールが合わず、月寒ラグビー場での開催となった。また準決勝までは、今年は北北海道が当番校であったので芦別での開催となった。決勝では、南大会は鋭いタックルで勝ち上がった函館ラ・サールと昨年のチャンピオン札幌山の手決勝となった。前半は函館ラ・サールの鋭いタックルと山の手フィジカルを前面に出したアタックの攻防が続いたが、後半開始早々にチャージから山の手がトライをして主導権を握り、33 対 7 で勝利。2 年連続 22 回目の花園を決めた。

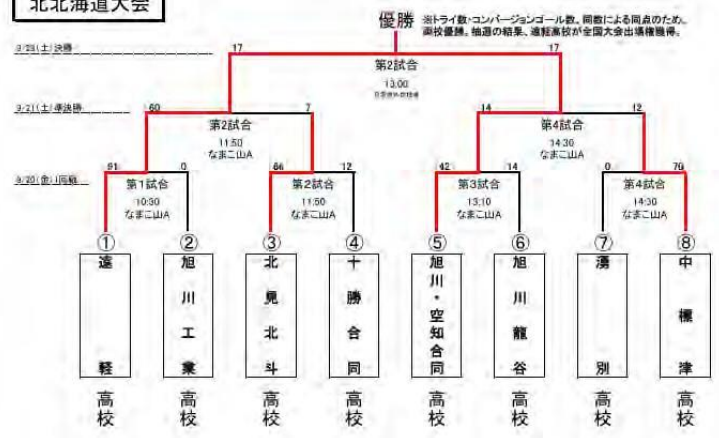


遠軽高校 VS 旭川市・空知合同チーム
(遠軽高校ラグビー部ブログより)

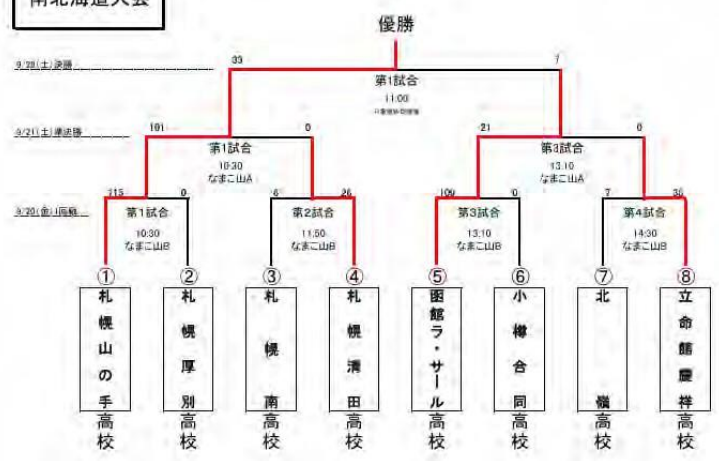
北大会は、昨年のチャンピオン遠軽に、羽幌・富良野・芦別の 3 校による旭川・空知合同チームが初の合同チームでの花園出場を目指す試合となった。合同チームは全道大会に入ってから試合ごとに成長をする戦いを続け、準決勝で中標津を終了間際同点トライ、逆転ゴールで決勝に進出。遠軽はキャプテンが怪我でここまで試合に出なかったがようやく復帰。1 年生 5 人がスタメンという中で 2 年連続花園を目指す戦いとなった。一進一退の攻防を続け、後半に遠軽が突き放す連続トライをして勝負あったかと思えたが、合同チームは諦めずに相手のカウンターを橋詰選手が 1 発のタックルで倒しそのボールを 60m 独走。最後はこの試合常に献身的なサポートをしていた吉田選手がこの日 2 個目のトライ決め同点のままノーサイドに。抽選の結果、遠軽高校が 2 年連続 12 回目の花園出場を果たした。南北の決勝は非常に良いゲームであった。北北海道は合同チームが決勝に進出する状況で、各地区の

第77回北海道高等学校ラグビーフットボール南・北選手権大会
兼第104回全国高等学校ラグビーフットボール大会北海道予選会

北北海道大会



南北海道大会



今後のラグビー普及や育成を改めて改善しなくてはならないと感じた。ただ合同チームの試合ごとの成長は本当に素晴らしい戦いであったことは書き添えておきたい。

なお、次年度以降も大和ハウス プレミストドームで、リーグONE公式戦、日本代表戦、高校大会南北決勝戦が開催されるように、株式会社札幌ドーム宛に日程確保のお願い文書を札幌市とHRFUの連名で提出させて頂いた。